

2019年8月28日

報道関係者各位

国づくり狂言プロジェクト実行委員会

「加藤清正公の土木資産×新作狂言」 武将芸能「能楽」で土木の魅力と地域の誇りを発信します！

1. 国づくり狂言プロジェクト

令和元（2019）～令和3年（2021）の3年にわたって、愛知で生まれ育ち熊本のまちの基盤をつくった戦国武将“加藤清正公”の功績と、熊本・愛知の交流をテーマに、「清正公さん国づくり狂言 肥後/尾張」を実施します。

① 山川里海の新作狂言／戦国武将 加藤清正公の国づくりを新作狂言に！

熊本・愛知の両地域の“まちづくり人”・“子どもたち”・“プロ能楽師”と共に創り上げた狂言で、地域間の交流を深め、「地域の魅力と誇り（シビックプライド）」を後世へと繋ぎます。

② 加藤清正公の土木資産パネル展示・シンポジウム

戦国武将の国づくりの足跡が、今も多く残る熊本。その中で土木資産の数々を紹介し、土木の歴史的魅力と地域づくりのすばらしさを伝えます。

2. 加藤清正公の功績

加藤清正公は、尾張の国出身（名古屋市で生まれ、津島市で3歳から11歳まで育つ）で、城主となった肥後熊本では親しみをもって「せいしょこさん」と呼ばれています。

清正公は「土木の神様」ともいわれ、治水・利水、干拓、架橋などに類まれな力を発揮し、熊本の国づくりの礎を築きました。

例えば、熊本城下を流れる白川は「暴れ川」と言われ、何度も大洪水に襲われていました。清正公は上流から河口まで川の状態をつぶさに見てまわり、蛇行した川の付け替えやショートカットなどの様々な工事に取りかかり、洪水被害の軽減を図りました。

また、堰（せき）を築き、井手を掘るなど、あらゆる工夫をして田畑を豊かにし、大津街道などの道路整備や、横島（現在の玉名市）の干拓事業にも力を注ぎ、現代までに至る熊本の都市の基盤を構築しました。

また、「築城の名手」といわれ、熊本城や名古屋城をはじめ、数々の名城の築城に携わったことで知られています。

これら清正公の偉業は、今も人々の生活の中に息づき、恩恵を与え続けています。



「名古屋城」の清正公



「熊本城」の清正公

3. イベント開催予定

【令和元年（2019年）】

■「秋のくまもとお城まつり」にて尾張狂言の上演、清正公さん土木資産展を開催

●山川里海の尾張新作狂言上演

- ・日時：令和元年10月13日（日） 15：00～16：30
- ・場所：熊本城二の丸広場ステージ
- ・狂言演目：清州越し狂言「轍（わだち）」、
なごや妖怪狂言「冥加さらえ」
- ・清正公さん土木資産紹介 他

※雨天の場合

日時：令和元年10月13日（日） 16：30～18：00

場所：桜の馬場 城彩苑 熊本城ミュージアム わくわく座(入場無料)



「冥加さらえ」で“小河童”を演じる
愛知の小学生

●清正公さん 国づくりブース（土木資産等のパネルの展示・動画の放映）

- ・日時：令和元年10月12日（土）～14日（祝）（期間中は常設展示）
- ・場所：熊本城二の丸広場特設ブース（ステージ横）

【令和2年（2020年）】

■熊本を題材にした山川里海の「肥後新作狂言」の制作開始

- ・土木の神と祀られる“清正公の伝承”や“熊本城下の妖怪・いきもの”を、
子どもたちと共に発掘
- ・コミカルで温かなストーリーを紡ぎ、清正公はじめ戦国武将の愛した
ユネスコ無形文化遺産「能楽」の狂言技法を用いて仕上げる



山川里海(やまかわさとみ)氏

■国づくりシンポジウム愛知・熊本、土木&能楽ワークショップを開催

【令和3年（2021年）】

■熊本城 加藤神社の創建150年の催しとあわせて、下記イベントを開催予定

- 国づくりシンポジウム熊本・愛知（仮題）の開催
- 熊本・愛知の子どもたちによる山川里海の新作狂言の競演
 - ・熊本の子どもたちが『肥後新作狂言』を上演
 - ・愛知の子どもたちが『尾張新作狂言』を上演

★プロジェクトの情報はホームページ、インスタグラムで随時発信していきます。

<国づくり狂言プロジェクトの情報発信>

- ・ホームページ：<https://kunizukuri.jimdofree.com/>
- ・インスタグラム：[@kunizukuri](https://www.instagram.com/kunizukuri)

👉 インスタグラムでは愛知の子どもたちの
お稽古の状況などをご覧いただけます

@ | Instagram



4. 本年「秋のくまもお城まつり」で上演する新作狂言

山川 里海（やまかわ さとみ）※の新作狂言について

狂言には、600年以上受け継がれた型があり、20～30分の短編劇として、大人から子どもまで初心者にも伝承しやすい芸能です。

また、人の営みの中で起こりうる不変の真理が、その型の組み合わせでコミカルに表現できる珠玉の芸能といえましょう。

山川 里海は、子どもたちと共に地域の魅力を掘り起こして紡ぎ出した物語（創作脚本）を、能楽師・狂言方・囃子方とのコラボで世に送り出し、独特の世界観を構築してきました。

戦国武将がこよなく愛した「能楽」。ユネスコ無形文化遺産日本第1号が伝える『狂言型』×『地域の魅力』で、永く伝え楽しめる狂言が生まれます。

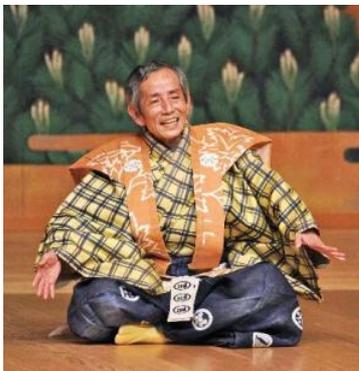
※【賞】国土交通省・日本河川協会「日本水大賞 2018」審査部会特別賞
 公益社団法人土木学会「土木広報大賞 2018」審査員賞
 環境省グッドライフアワード 2105「環境と学び特別賞」 他 多数

清州越し狂言『轍（わだち）』 作・脚本：山川 里海 狂言振付：佐藤 友彦 (あらすじ)

時は1612年、清正公さんが故郷名古屋の街づくりに励んだ「清須越し」。てんやわんやの7万人引越しを見物に出かけた太郎冠者は、加藤清正の手下率いる石運びに巻き込まれ、川の渡船で福島正則の手下とも道連れに。堀川端に到着した三人が、祝い酒をひっかけて、ほろ酔い気分でもめ始めたその時に、清正公さん伝説一大イベントが・・・。



(出演者)



“清州越し商家の太郎冠者”
 佐藤 友彦（和泉流）
 重要無形文化財総合指定保持者



“加藤清正の手下”
 大橋 則夫（和泉流）



“福島正則の手下”
 今枝 郁雄（和泉流）

なごや妖怪狂言『冥加さらえ』 作・脚本：山川 里海 狂言振付：佐藤 友彦
(あらすじ)

清正公さんのお守役をした河童太郎が、
 小河童を引き連れて、百年ぶりに下流の里
 へ下りてきた。龍神から不老長寿の妙薬「人
 間の尻小玉」集めを命じられた河童たちは、
 妖怪“おからねこ”と“甘酒女”と手を組
 んで、川ざらえイベントを企画する。

ばれたら「石にされる罰」におびえつつ、
 作戦成功！と思いきや……。

(出演者)



“河童太郎”
 鹿島 俊裕 (和泉流)



“おからねこ”
 井上 松次郎 (和泉流)
 重要無形文化財総合指定保持者



“甘酒女”
 十四世 野村又三郎 (和泉流)
 重要無形文化財総合指定保持者



“龍神”
 奥津 健太郎 (和泉流)



“小河童”
 (愛知の小学生：オーディション選考)



“笛”
 大野 誠 (藤田流)



“小鼓”
 久田 陽春子 (大倉流)
 重要無形文化財総合指定保持者



“大鼓”
 河村 裕一郎 (石井流)



“太鼓”
 吉谷 潔 (金春流)

清正公・熊本 と 能狂言

戦国武将は、室町期に大成した能楽をこよなく愛し、特に豊臣秀吉公が能・狂言に心酔していたことから、清正公も前田利家・福島正則・黒田官兵衛諸公と共に戦の節目や諸行事の度に演じていました。江戸期には、家康が幕府の式学としたことから、大名家にはお抱え能楽師が置かれ、武家・町人の精神鍛錬・共通語教育・時には諸藩の情報収集（諜報）の役割も果たしました。肥後熊本藩にも能役者が召し抱えられ、その菩提寺が「役者寺」と呼ばれるなど、能楽愛好者が多い地域です。

尾張の狂言

尾張名古屋は、東京や京都と共に、狂言が盛んな地域です。

現在、名古屋で活躍しているのは、明治維新の混乱後も弟子たちが結束して流儀を守った「狂言共同社」と江戸時代に尾張と肥後の両藩に抱えられ、400年途絶えることなく続いている「野村又三郎家」です。

尾張の能狂言は、江戸時代から武家のみならず町人層にも愛され、子どもの習い事や、今でいうサークル活動として、生活の中に浸透していました。

今でも、能楽堂で演じられだけでなく、「やっとかめ文化祭」で野外の辻狂言が演じられるなど、様々な形で楽しまれています。

清正公の代表的な土木資産

<鼻ぐり井手:熊本県菊陽町馬場楠 白川>

立野から流れてくる火山灰が水路に堆積することなく白川に水を通す仕掛け。

岩壁の下部に水流穴があり渦巻いた漕の水が井手底の穴より、勢いよく次の漕へ噴流し土砂を巻き上げ、次々と下流へ押し流しています。



<渡鹿堰:熊本県熊本市渡鹿 白川>

川から農業用水を取水するための白川で一番大きな堰（せき）です。この堰は斜めに突き出しているのが特徴です。

築造当時(西暦 1600 年頃)は熊本平野 1,083ha に水を行きわたらせ、農地を潤しました。



△画像出典:国土交通省 熊本河川国道事務所

5. 実行委員会

- 委員長 : 稲垣 直
- 委員 (愛知) : 秀島 栄三 (名古屋工業大学大学院教授)
林 正章
森 廣美 (木曾三川子ども狂言クラブ代表)
- 委員 (熊本) : 湯田 崇弘 (加藤神社第13代宮司)
毛利 秀士 (一新校区自治協議会長)
牧野 義紀 (私たちの熊本勉強会)
- 委員 (研究者) : 木村 亮 (京都大学大学院教授)
島谷 幸宏 (九州大学大学院教授)
田中 尚人 (熊本大学准教授)
- 委員 (企業) : 竹内 えり子 (株式会社建設技術研究所)
海津 利幸 (株式会社建設技術研究所)
増山 淳 (株式会社建設技術研究所)
桂 謙吾 (株式会社建設技術研究所)
清水 嘉一 (株式会社建設技術研究所)
藤原 望 (株式会社建設技術研究所)
徳本 冬華 (株式会社建設技術研究所)
高橋 裕美 (株式会社建設技術研究所)

6. プロジェクトパートナー

(順不同)

- 共催 : 熊本市 (お城まつり運営委員会)
- 協賛団体 : 株式会社プロトコーポレーション
エフシーテック株式会社
株式会社三祐コンサルタンツ
株式会社太閤ビルディング
有限会社しら河
株式会社サクラ
株式会社建設技術研究所
- 助成団体 : アイシングループ
公益財団法人全国税理士共栄会文化財団
- 後援 : 名古屋市
熊本市教育委員会
津島市教育委員会
公益財団法人名古屋市教育スポーツ協会

以上

【本件に関するお問い合わせ】

株式会社 建設技術研究所 管理本部広報室 松田 (まつだ)
TEL : 03-3668-4378 (直通) e-mail : koho@ctie.co.jp 平日 9:00~17:00
〒103-8430 東京都中央区日本橋浜町 3-21-1 日本橋浜町 F タワー